

OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

岡山市の中心に位置する岡山県立美術館（開館：1988年3月18日）は、2018年3月に創立30周年を迎えた。建物の設計は「最高裁判所」なども手がけた建築家 岡田新一氏である。県立美術館として、古典から近現代アートまで様々な時代、ジャンル、大きさの作品を展示できるように、オープンで自由な空間が設計された。





公共建築にも妥協なし、建築家 岡田新一氏の設計

岡山に祖をもつ建築家 岡田新一氏は、自身も岡山県を「ホームグラウンド」と称し、それがきっかけで当時の長野士郎知事より岡山県立美術館の設計を依頼された。周辺には、岡田氏設計の「岡山市立オリエント美術館」、前川國男氏設計の「天神山文化プラザ」をはじめとする文化施設が集約され『岡山カルチャーゾーン』を形成している。

こうした周辺環境との調和と、近代から現代まで幅広い展示を行う県立美術館としての「複雑性」というキーワードをデザインに取り入れ、石、タイル、金属という異なる素材を組み合わせた建築が考え出された。また、基部には天神山の組成岩である岡山県産の「万成石（まんなりいし）」を使用し、外観に重厚感を与えている。

2013年には、竣工から25年経過しても建築の存在価値を發揮し、美しく維持され地域社会に貢献してきた建物として評価され、「第13回日本建築家協会25年賞」を受賞した。



岡田新一 (1928年 - 2014年)

1928 (昭3) 年 水戸市生まれ
東京高等師範学校付属中学校 卒業
旧制静岡高等学校 卒業
1955 (昭30) 年 東京大学工学部建築学科 卒業
1957 (昭32) 年 東京大学大学院修士課程 修了
鹿島建設株式会社設計部勤務 (1969年まで)
エール大学建築芸術学部大学院 修了
1963 (昭38) 年 SOM設計事務所 (ニューヨーク事務所) 勤務
1964 (昭39) 年 株式会社岡田新一設計事務所 設立
1969 (昭44) 年

●主な受賞歴：
1975 (昭50) 年 日本建築学会賞
恩賜賞 日本藝術院賞受賞
1996 (平8) 年 日本建築家協会25年賞 大賞
2006 (平18) 年 旭日中綴章受勲 など
2008 (平20) 年



岡山県立美術館

鹿島建物管理概要
管理開始 2013年4月
管理内容 総合連絡調整業務、設備管理業務、清掃業務、警備業務、ホール運営業務、展示室内監視業務
管轄 中国支社 岡山出張所

建築概要
施設名称 岡山県立美術館
所在地 岡山県岡山市北区天神町8番48号
主要用途 文化施設（美術館）
設計団体 岡田新一設計事務所
面積 敷地面積 8,350m² (土光敏夫先生記念苑含む)
延床面積 14,269m²
構造 RC造
開館 1988年3月18日

主要設備概要
電気設備 高圧 6.6kV
設備容量 2,175kVA
非常用発電機 400kVA × 1台
空調設備 空気熱源アンモニアヒートポンプスクロール式冷凍機ユニット
エアハンドリングユニット
ファンコイルユニット
バッケージエアコン
衛生設備 加圧給水ユニット
電気温水器ユニット



写真上左：岡山の美術をみせる収蔵品展示。雪舟の画風を慕った弟子たちの作品をテーマとした展示

写真上右：企画展「ポーラ美術館コレクション」。国内屈指の西洋絵画をコレクションする「ポーラ美術館」を誘致した企画展には、6万6千人を超える来館者があった

写真中左・右：縁結び 招き猫づくりワークショップ。様々な素材の招き猫を約700点コレクションする「招き猫美術館」協力のもと、絵付け体験が行われた

写真下左：企画展「創作版画が歩んだ道のり」で開催されたワークショップ。創作版画家（タイラ コウ氏：岡山県笠岡市在住）指導のもと木版画摺りの体験が行われた

様々な切り口でみせる岡山美術コレクション

岡山県は、「夢二郷土美術館」や「奈義町現代美術館」など作家や年代、文化に特化した専門美術館が数多いことで知られている。そのなかで岡山県立美術館は、県立という立場から岡山県における美術の現況を横断的に把握し、様々な切り口での展示会を行っている。

「当館の展示室は、体育馆のように自由度が高い空間に、可動式の間仕切り壁や移動ケースを配置するつくりになっています。その都度、展示内容にふさわしい空間設計を行うことができ、当館の展示スタイルに適していると感じています。もちろん、汎用性の高いこの空間を活かさなければ、作品も空間も熟知している必要があります。そのため、展示の企画や見せ方の検討、展示空間の設計まですべて当館の学芸員の手で行っています」

収蔵品展示では、岡山の美術作品一点一点をじっくりと見てもらうために、一度に展示する作品の数を絞っている。それと同時に、県民に約5,000点の収蔵品からより多くの作品に触れてもらうため、日本画は1カ月に一度、洋画は3カ月に一度の高い頻度で展示替えを行っているという。

また、約80館ある県内の美術館をまとめて調整する役割も担っている。

「当館で体系的な展示会ができるのは、県内の他の美術館との間で、作品に関する情報共有や作品の貸し借りが行いやすい良好な関係を築くことができているからです。岡山の美術界全体で美術作品をまもっていくために、美術館同士の横の結びつきを一層強めていきたいと考えています。そして、県立美術館として県民の方々と岡山の美術をつなぐ使命を果たしていきます」

岡山の美術に誇りをもって



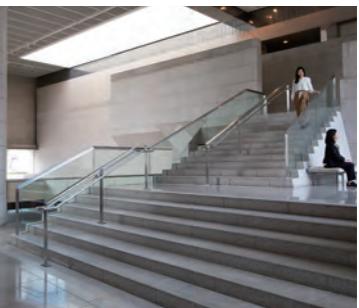
写真左より
岡山県立美術館
副館長 真田 政幸 様

岡山県立美術館
館長 守安 攻 様

鹿島建物総合管理株式会社
中国支社 岡山出張所
岡山県立美術館管理事務所
所長 大森 淳志



Twitter https://twitter.com/okayama_kenbi
Instagram https://www.instagram.com/okayama_kenbi/



来館者の安全と清潔な空間を第一に考える



守安様 1988年に開館して30年余りが経ちました。鹿島建物さんには2013年から指定管理者として、施設の統括管理をお願いしています。

真田様 来館するお客様の年齢層が年々上がっていることもあります。まずは安全に美術を楽しめる施設になるように気を付けていただいている。

大森 例えば掃除に使用するワックスは滑りやすいものは選ばないようにする、小さな段差があったら解消の工夫をするなど、足元の安全に特に配慮しています。

守安様 美術を味わう環境としては、清潔感を保つことも重要なと考えます。美術品を飾る空間が美しくなくては興ざめしてしまいますから、鹿島建物さん

には、清掃頻度や品質を細かくチェックしながら清掃管理をし ていただいています。

真田様 建物に使用されている素材は石・タイル・金属と、それぞれ設計者がこだわって選んでいます。特殊な素材もあるため、その分、手間がかかっているはずですが美しく保たれて、設計者の意図したみえ方が維持できていると思います。建物基部の石材などは、ただ置いていると苔が生えてきてしまいますが、当館ではほとんどみられません。

大森 巡回の際には、展示ケースに汚れがないか、汚れが目立つ金属はきれいに保たれているなどを入念にチェックしています。人の入りが多い日には巡回を増やし、自分の目で館内の状況を確認するよう心がけています。



確実な管理が次の展覧会につながる

守安様 30周年を機に、広報に力を入れ始めています。2018年4月から魅力発信スタッフを採用し、SNSなどを活用して情報発信を行うようになりました。

大森 “みせる美術館”としての情報発信を受け、建物の美観保持がますます大切になったと意識しました。引き続き清掃品質の維持に努めています。

真田様 設備管理の面では、空調管理にもかなり気を使っています。設計当時に比べると岡山の平均気温が上がっているため、場所によっては空調のスペックが不十分になってしまいますよね。

大森 夏場はエントランスホールを冷やすのに特に時間がかかります。開館時間に適

温になるよう、早めに温度調整を開始します。

守安様 設備の更新は今後の課題の一つです。これまでに大々的な更新は一度も行っておらず、ほとんどの設備機器が竣工当時のままであります。それでも同規模の他の施設と比べると光熱水費が抑えられています。これも設備機器管理を得意とする鹿島建物さんの本領発揮ですね。

大森 展示室や収蔵庫など作品のある部屋の空調は24時間稼働のため、毎朝夜間の運転履歴をみて、設備に異常はなかったか、設定に無駄がなかったなどを確認しています。建物管理に関するデータは、CAFMというシステムに入力・蓄積していますので、他の物件との比較分析も行うことができます。

真田様 海外の展覧会を誘致する際には過去の同時期の外気温と室内温湿度をどのようにコントロールしていたかなど、データの提出が求められます。毎日の適切な管理とその履歴の積み重ねが展覧会の誘致の可否を左右するため、鹿島建物さんの建物管理のノウハウと正確な記録が必要不可欠です。

守安様 この建物は、それ自体が芸術作品です。ふつう公共建築というと実用性や効率が問われて、ありきたりなものになってしまふところを、岡田先生は、岡山に夢のような建物をのこしてくれました。岡山の美術と同様、この建物は私たちの宝です。これからも建物、保管している作品、美術をみせる空間をまもるサポートをお願いします。



写真上: 2018年4月より広報専門の魅力発信スタッフを採用し、Twitter、Instagram等を利用して展示会やワークショップなどの情報を広く発信している

写真下左: 屋上に設置されているアンモニア冷凍機の点検。空調のための重要な設備であり、法定より多い年2回の点検で確実な設備管理を行っている

写真下右: 階段の手すりなど、建築素材の多くにステンレスが使われている。汚れが目立ちやすいため細やかな清掃により、いつも美しく保たれている

大空間に纖細な管理

鹿島建物は、2013年から指定管理者として岡山県立美術館の統括管理を行っています。

岡山県立美術館は、天井の高い贅沢な空間が多いのが特徴です。大空間の管球交換は照明機器のついたレールを下ろして行います。

日常点検での目視による確認と履歴に基づく予想を立て、展示会期間中に照明が切れることがないよう早めに交換を行っています。